



SOUTH FRONT, DOREMUS SCHOOL, YOKOHAMA. 横浜共立女学校校舎及び体育館の一部

建学の精神

「主(神)を畏れることは知恵のはじめ」(箴言 1 章 7 節)
「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」また、『隣人を自分のように愛しなさい』(ルカによる福音書 10 章 27 節)などの聖書の言葉に基づき、「人は何のために生きるか」という、自分の人生の目標を追い求めて歩んでいく、生徒一人ひとりの助けとなり、力となることを目標にしています。

教育の根底にあるもの、それは「ひとりの人間を無条件に尊重し愛する」精神です。

女子教育において先駆的な歴史をもつ横浜共立学園では、女性としての在り方や生き方を深く考えるとともに、女性として自立するために必要な知識・技術を磨きつつ、創立者の三人の女性宣教師のように、これからの新しい時代を拓き、世界の平和を求め力となることを目指しています。



横浜共立学園 校章・マーク
KJG の頭文字は、Kind (慈愛)、Just (正義)、Good (善意) であり、かつての校名〈共立女学校〉にも通じます。枠の菱形は対角線を結ぶと十字架の形を示すことから、拠って立つ精神を表わしています。

学校法人 横浜共立学園

〒231-8662 神奈川県横浜市中区山手町212

TEL : 045-641-3785 FAX : 045-641-9188



創立

横浜に数年間滞在するうちに、女子教育と混血児救済の必要性を痛感したジェームズ・H・バラの要請に応じて、ミセス・ブライン、ミス・クロスビー、ミセス・ピアソンの三人の女性が日本宣教のために献身しました。

1871 年(明治 4) 男性でも危険の多い日本へ来た三人の女性は、先住の宣教師たちから驚異の目で迎えられました。助けたのはバラだけでした。彼女たちは、まず伊藤藤吉を雇います。伊藤の英語力はまだおぼつかないものでしたが、通訳兼雑用係として忠実に働き、三人の信頼に応えました。

バラの持ち家だった山手の 48 番館を借り、同年 8 月 28 日〈アメリカン・ミッション・ホーム〉が正式に開設。これが、現在の横浜共立学園の前身です。しかし、キリシタン禁制の高札が撤去される 2 年前だったため、しばらくの間は混血児も、日本の少女も来ませんでした。

はじめは、母親を無くしたイギリス人の二人の幼い姉妹の養育から始まりました。新任の E・W・クラークを迎えるために横浜に来てミッション・ホームに滞在したことをきっかけに、静岡学問所の教授であった中村正直が日本初の「生徒募集・入学案内」を書いてくれました。宣伝文の効果があって、混血児や女生徒の入塾希望者が増え、また英語を勉強して将来に役立てようとする、実学目的の熱心な青年たちもやって来ました。彼らの中には、キリスト教の真理に触れて受洗する者も多く出て、のちに教育、伝道、実業など多様な分野で重要な働きをしました。

1872 年(明治 5) 10 月、山手 212 番のロシア公使のために用意されていた土地を借り、広い校地に移りました。ここが、現在の横浜共立学園です。移転後は、男子通学生は断わり、日本で最初の女子寄宿学校がつけられました。同年 12 月〈日本婦女英学校〉と改組しましたが、相変わらず〈ミッション・ホーム〉と呼ばれたり(212 番)、WUMS の初代会長の名にちなんで、〈ドリーマス・スクール〉などと呼ばれました。

1875 年(明治 8) 横浜の全ミッションナリーの精神的母であったミセス・ブラインは、健康を害しアメリカに帰国。このころ Union を「共立」と表現して、〈共立女学校〉と改称しました。

創立の背景と歴史

ミセス・メアリー・P・ブラインは、アメリカ婦人一致外国伝道協会(WUMS)のオルバニー支部副会長でした。統率力と包容力を兼ね備えた温かい人柄で、日曜学校を受け持ち、孫もいる婦人でした。1869 年(明治 2) 1 月、横浜で 7 年間活動していたバラが帰国して、ブラインの所に滞在し、日本の実状をつぶさに訴えました。特に混血児問題はキリスト教に対する非難に結びつき、宣教の妨げになっていました。ブラインは「自分がやることではない」と思い込み、ただ、いつも祈っていましたが、ある日キリストに招かれていると気がつき、日本で行なう初めての特別任務に就くことを承諾しました。健康を損ない日本を去ったのちに、再び中国宣教に奉仕しました。

ミス・ジュリア・N・クロスビーの家系には、父母ともに先祖にアメリカ独立戦争時の将軍がおり、独立宣言の署名者 フロイド 将軍の血筋を引いています。

ミセス・ルイズ・H・ピアソンは、アメリカに帰化したフランス人の家系で、結婚して四人の子供に恵まれましたが、28 歳で夫を亡くし、子供たちも次々に亡くしました。派遣宣教師の呼びかけに応じたピアソンに、友人は日本の乞食の一群の写真を持ってきて、「この人たちを兄弟姉妹として愛することができるか」と迫りました。断食をしてひたすら祈ったピアソンは、7 日目にエステル記 4 章 16 節の聖句「われもし死ぬべくば死ぬべし」に触れて確信し、人々の反対を押し切って、日本行きを決意したといえます。1881 年(明治 14) 設立した(偕成伝道女学校)(のちの共立女子神学校)の校長も務めました。

高い志を持って来日した彼女たちは、神奈川県知事を通して、都の高貴な人物の教育係の要請があったときも、使命に邁進するためにこの申し出を断っています。

バラからの借家 山手 48 番館は学校とするには狭過ぎたので、英国駐屯所であった隣接地 山手 178 番を貸与する嘆願書を出し、5 カ月後に外務卿 副島種臣、外務大輔 寺嶋宗則よりアメリカ合衆国特派全権大使のデロング宛に貸与許可の回答を得ます。しかし、アメリカ政府が海兵隊の病院建設地として手離さなかったため、使用できませんでした。結局、この土地はフェリス女学院が譲り受けています。

創設後もキリシタン禁制のお達しに阻まれ、入学者が現れなかったミッション・ホームを救ったのは、静岡学問所の教授であった中村正直です。中村は、カナダ・メソジスト教会宣教師 ジョージ・コ克蘭から洗礼を受けていました。1871 年(明治 4) 10 月、ベストセラーとなった『西国立志編』の翻訳者で、東京・湯島の(昌平黌)で儒学者として最高位である「御儒者」でもあります。ピアソンらの優れた教育を実際に見た中村は感銘を受け、キリスト教禁制下であることを充分配慮して、名称を(亜米利加婦人教授所)とし、キリスト教についてはまったく触れないという卓越したアイディアで、我が国最初の「生徒募集・入学案内」の一文を書いて、ミッション・ホームを社会に紹介しました。

祈禱会も行なわれるようになり、この祈禱会を原動力として 1872 年(明治 5) 外国人のユニオン・チャーチと、日本人の日本基督公会(のちの横浜海岸教会)の二つの教会が設置されています。



三校祖 左から、
ミス・ジュリア・N・クロスビー (1833~1918年)
ミセス・ルイズ・H・ピアソン (1832~1899年)
ミセス・メアリー・P・ブライン (1820~1885年)



CHAPEL, DOREMUS SCHOOL, YOKOHAMA. 横浜共立女学校校舎